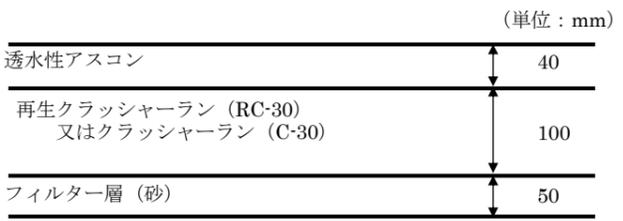
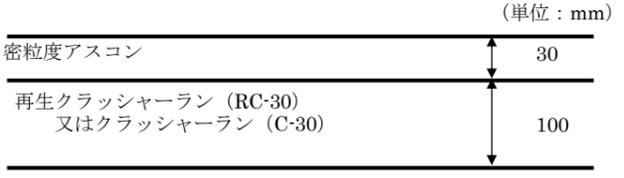
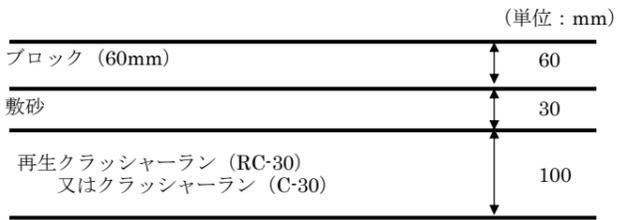
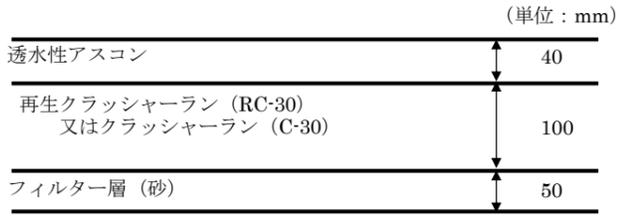
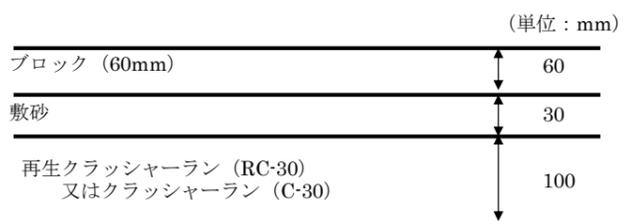


第4編 舗装
4-49~50

新	旧
<p><b>6. 歩道及び自歩道の舗装</b></p> <p><b>6.1 舗装の構造と構成</b></p> <p>歩道の舗装は、地域性や沿道の状況または道路構造により透水性舗装とアスファルト舗装を使い分けるものとする。  <b>(第6編交通安全編 1.5.2を参照することとする)</b>                  なお、地域特性、景観に配慮する必要がある市街地等にあつては、目的、条件、コンセプト等をよく検討し、事業課と相談の上、透水性ブロック舗装や透水性カラー舗装等としてもよい。                  また、実設計にあたっては、「舗装設計施工指針(平成18年版)」および「アスファルト舗装要綱」等、各種基準・指針類並びに<b>6.2 歩道舗装の種類</b>を参照することとする。</p> <p>(1) 透水性舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.1 透水性舗装</b></p> <p>(2) アスファルト舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.2 アスファルト舗装</b></p> <p>(3) <b>透水性</b>インターロッキングブロック舗装又は<b>透水性</b>平板舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.3 透水性インターロッキングブロック舗装又は透水性平板舗装</b></p> <p>※1 RC-30については、県内においてほとんど生産されていないため、当面の間RC-40を使用できるものとする。                  ※2 経済性、現場条件及び占用物件の状況等を考慮の上、路盤材に鉄鋼スラグを用いることができる。</p>	<p><b>6. 歩道及び自歩道の舗装</b></p> <p><b>6.1 舗装の構造と構成</b></p> <p>歩道の舗装は、地域性や沿道の状況または道路構造により透水性舗装とアスファルト舗装を使い分けるものとする。  <b>(第6編交通安全編 1.5.2を参照することとする)</b>                  なお、地域特性、景観に配慮する必要がある市街地等にあつては、目的、条件、コンセプト等をよく検討し、事業課と相談の上、透水性ブロック舗装や透水性カラー舗装等としてもよい。</p> <p>(1) 透水性舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.1 透水性舗装</b></p> <p>(2) アスファルト舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.2 アスファルト舗装</b></p> <p>(3) 透水性インターロッキングブロック舗装又は透水性平板舗装</p>  <p style="text-align: center;">(単位: mm)</p> <p style="text-align: center;"><b>図 6.3 透水性インターロッキングブロック舗装又は透水性平板舗装</b></p> <p>※1 RC-30については、県内においてほとんど生産されていないため、当面の間RC-40を使用できるものとする。                  ※2 経済性、現場条件及び占用物件の状況等を考慮の上、路盤材に鉄鋼スラグを用いることができる。</p>

道路構造の手引き改訂対照表

第4編 舗装
4-50~51

新	旧
<p><b>6.1.2 インターlockingブロック舗装</b></p> <p>(1) 概要                      インターlockingブロック舗装とは、高振動加圧方式で製造した舗装用コンクリートブロックを幾何形状に敷き並べ、ブロック相互のかみ合わせにより荷重分散を図る舗装。</p> <p>(2) 特徴                      走行性、凍結融解、すりへり作用の抵抗性に優れ、補修も容易。周辺環境に調和した舗装面を形成することができる素材である。                      インターlockingブロックの種類には、普通インターlockingブロック、透水性インターlockingブロック、植生用インターlockingブロック、視覚障害者誘導用インターlockingブロック、再生材料利用インターlockingブロックおよび大気浄化インターlockingブロックなどがある。</p> <p>(3) 設計手法                      「舗装設計施工指針(平成18年版)」および「アスファルト舗装要綱」、「インターlockingブロック舗装設計施工要領 改訂版、平成19年3月平成29年3月、インターlockingブロック舗装技術協会」等を参照することとする。</p> <p><b>6.1.3 コンクリート平板舗装</b></p> <p>(1) 概要                      一定の大きさのコンクリート平板を路盤状に敷き並べて、砂やセメントモルタル等で目詰めした舗装。</p> <p>(2) 特徴                      コンクリート平板舗装は、表層部のセメントに顔料を混和させたカラー仕上げが一般的であるが、天然の川砂利等を表層に使用した洗い出し仕上げ、天然石や採石を表層に使用した擬石仕上げ等がある。インターlocking舗装同様に周辺環境に調和した舗装面を形成でき、透水性ブロック、再生材利用ブロック、大気浄化ブロックなどがある。</p> <p>(3) 設計手法                      「舗装設計施工指針(平成18年版)」および、「アスファルト舗装要綱」および「舗装用平板施工仕様書(例)、平成29年3月、全国エクステリアコンクリート協会」等を参照することとする。</p>	<p><b>6.1.2 インターlockingブロック舗装</b></p> <p>(1) 概要                      インターlockingブロック舗装とは、高振動加圧方式で製造した舗装用コンクリートブロックを幾何形状に敷き並べ、ブロック相互のかみ合わせにより荷重分散を図る舗装。</p> <p>(2) 特徴                      走行性、凍結融解、すりへり作用の抵抗性に優れ、補修も容易。周辺環境に調和した舗装面を形成することができる素材である。                      インターlockingブロックの種類には、普通インターlockingブロック、透水性インターlockingブロック、植生用インターlockingブロック、視覚障害者誘導用インターlockingブロック、再生材料利用インターlockingブロックおよび大気浄化インターlockingブロックなどがある。</p> <p>(3) 設計手法                      「舗装設計施工指針(平成18年版)」および「アスファルト舗装要綱」、「インターlockingブロック舗装設計施工要領 改訂版、平成19年3月、インターlockingブロック舗装技術協会」等を参照することとする。</p> <p><b>6.1.3 コンクリート平板舗装</b></p> <p>(1) 概要                      一定の大きさのコンクリート平板を路盤状に敷き並べて、砂やセメントモルタル等で目詰めした舗装。</p> <p>(2) 特徴                      コンクリート平板舗装は、表層部のセメントに顔料を混和させたカラー仕上げが一般的であるが、天然の川砂利等を表層に使用した洗い出し仕上げ、天然石や採石を表層に使用した擬石仕上げ等がある。インターlocking舗装同様に周辺環境に調和した舗装面を形成でき、透水性ブロック、再生材利用ブロック、大気浄化ブロックなどがある。</p> <p>(3) 設計手法                      「舗装設計施工指針(平成18年版)」および、「アスファルト舗装要綱」等を参照することとする。</p>